

冬本番に入り、急に寒さが厳しくなりました。ずっと好調が続けてきた飽浦っ子の中にも、体調を崩す子が増えてきていて心配しているところです。

さて、先日挙行された「創立150周年記念式典」は、実行委員会の方々をはじめ、育友会の皆様の様々なご協力とご支援のおかげで、150周年にふさわしい立派な式となりました。児童代表、竹本胡珀さんの言葉も素晴らしく、式典に華を添えてくれました。しっかりした態度で臨んだ子どもたちも含め、関わられた皆様に、心より感謝申し上げます。

関連して開催されたマジックショーでは、子どもたちの驚きの表情や歓声を上げる声がとても印象的でした。記念行事を盛り上げる催しになったと思います。

そして飽浦フェスタは、各学年の発表が非常にバラエティに富み、子どもたちや先生方の創意工夫が生かされた素晴らしい内容になっていました。ここに至る努力と成果は確実に一人一人の力となっています。自信をもって今後の活動に生かしてほしいと願っています。

<Edu コラム>

私の教師生活のスタートは、養護学校（今の特別支援学校）の臨時採用教員でした。情緒、知的、肢体不自由などの障害を重複してもつお子さんの学校で、半年間は高等部、もう半年間は小等部で過ごしました。手足を自由に動かせない、言葉を発するのが難しい、それぞれに重度の障害を抱えていましたが、学級内の雰囲気は明るく、子どもたちの多くは何事にも意欲的に取り組んでいました。

その中の1人に高等部1年在籍のK君がいました。K君は、小学6年生の時に交通事故に合い、頭と下半身を強く打ち、補助具での歩行を余儀なくされました。脳にも損傷があり、記憶と発音に重い障害が残りました。事故に合うまでのK君は、課外クラブの野球チームに所属し、5番ファーストのスラッガーとして活躍していたそうです。学級でのK君の特徴は、努力家で、とにかく誰に対しても優しいこと。笑顔を絶やさず、冗談を言って、周りを和ませるのが得意でした。

もう1人の男子、高等部2年のA君は、先天性の脳性麻痺のためアテトーゼといわれる不随意運動の症状があり、手足をコントロールすることも難しい状態でした。それでも、痛みに負けず機能訓練を真剣に受け、学習面でも最大限の努力を惜しみませんでした。彼は生徒会長として、学校全体がよりよくなるようにアイデアを考え、即、実行に移す行動派でもありました。後に、福祉事務所で働くようになり、パソコンを駆使して広報誌などの作成に携わっていました。

高等部1年女子のYさんは、不自由な手を巧みに使い、芸術的な「さをり織り」の作品をつくり、プレゼントしてくれました。36年も前にもらったものですが、今も部屋に飾っています。

他にも魅力的な子どもたちがたくさん（全員ですが…）いましたが、紹介しきれません。特別支援学校の子どもたちも、みんなと同じように頑張っていることを、12月4日の「なかよし集会」の時に話したかったのですが、別の個人的なエピソードを話したので、この紙面をお借りしました。

【12月の行事予定】

- 3日（水） 全校集会
- 4日（木） なかよし集会 委員会活動
- 5日（金） 午前中5時間授業 給食後下校 13:35頃 [11日（木）まで]
- 12日（金） あくりゅうクラブ
- 18日（木） チャレンジタイム（算数検定）
- 19日（金） 授業参観（持久走・長縄大会）・学級懇談会
- 22日（月） 命名（進水）式 見学（6年：三菱重工業長崎造船所）
- 24日（水） 終業式
- ※ 3学期 始業式 1月8日（木）



長崎市立飽浦小学校創立150周年記念式典



実行委員長挨拶（代理：阿部さん）



長崎市長 祝辞（鈴木市長）



児童代表の言葉（6年 竹本さん）

マジックショー & 飽浦フェスタ



マジシャン DO マジックショー



2・3年 音読劇「お手紙」



1年 「にこにこ かくれんぼ」



3・4年 合奏「おどるポンポコリン」



4・5年「幸せの約束～私たちがつくる物語」



6年「千船太鼓2025」